



RESASを活用した 経済動向分析

データで見る！宮城県 多賀城市・七ヶ浜町

2021年12月16日

多賀城・七ヶ浜商工会

一般社団法人東京都中小企業診断士協会 城北支部

公的サポート研究会 地域部会



背景	多賀城市及び七ヶ浜町が直面している問題点を抽出し、今後の産業政策の方向性を検討する材料を提供する。
目的	東日本大震災からの復興や新型コロナウイルス感染症の拡大による経営環境の変化を見据え、RESASを活用し今後の地域課題をどう解決していくかの糸口をつかむために本調査を実施。
調査項目	①地域の経済循環 ②産業構造、 ③平日、休日の滞在人口 ④人口構成



- コロナ禍で現地訪問が憚られた事情もあり、RESASなどで提供されるデータから地域の課題を洗い出した。

今回利用したデータ出所



地域経済分析システム（RESAS）

<https://resas.go.jp/>

- ✓ 経済産業省と内閣官房が提供
- ✓ 産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステム
- ✓ 地方創生の様々な取り組みを情報面から支援



地域経済循環分析自動作成ツール

<http://www.env.go.jp/policy/circulation/>

- ✓ 環境省が提供
- ✓ RESASの地域経済循環マップの元データはこちら
- ✓ 任意に選択した自治体について自動的に分析するツールがダウンロードできる

（いずれから入手できるデータの場合、グラフや図表がわかりやすい方を使用しています）



地域の経済循環

域内のお金の流入出状況 —多賀城市—



- 多賀城市では住民が町外で雇用所得を得、町外で消費する構造がうかがえる。
- 地域経済循環率も54.6%と低めの数値となっている。

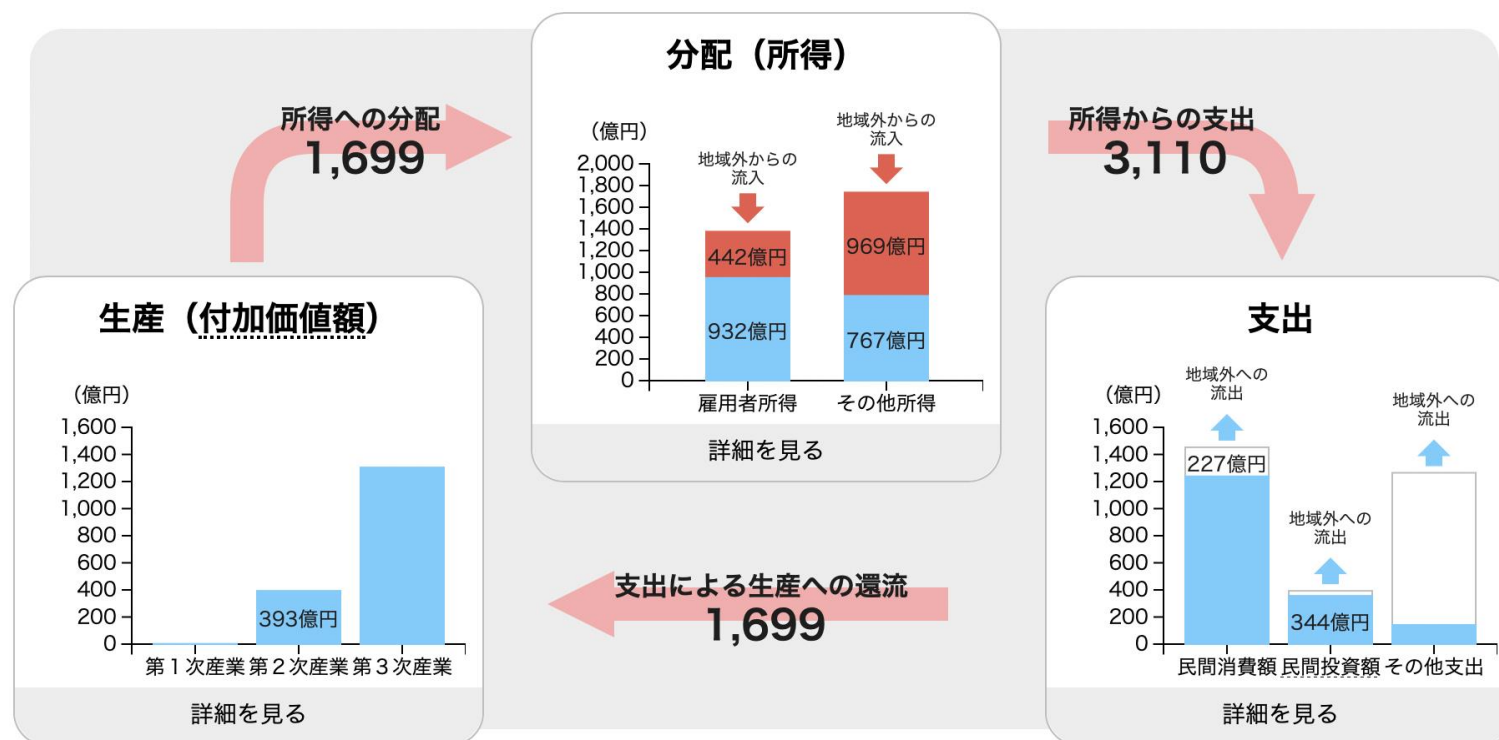
地域経済循環率

54.6%

地域経済循環図

2015年

指定地域：宮城県多賀城市



域内のお金の流入状況 ―七ヶ浜町―



- 七ヶ浜町も地域外で雇用所得を得、地域外で消費する構造は同様。
- 多賀城市と比較するとより傾向が顕著に現れている。

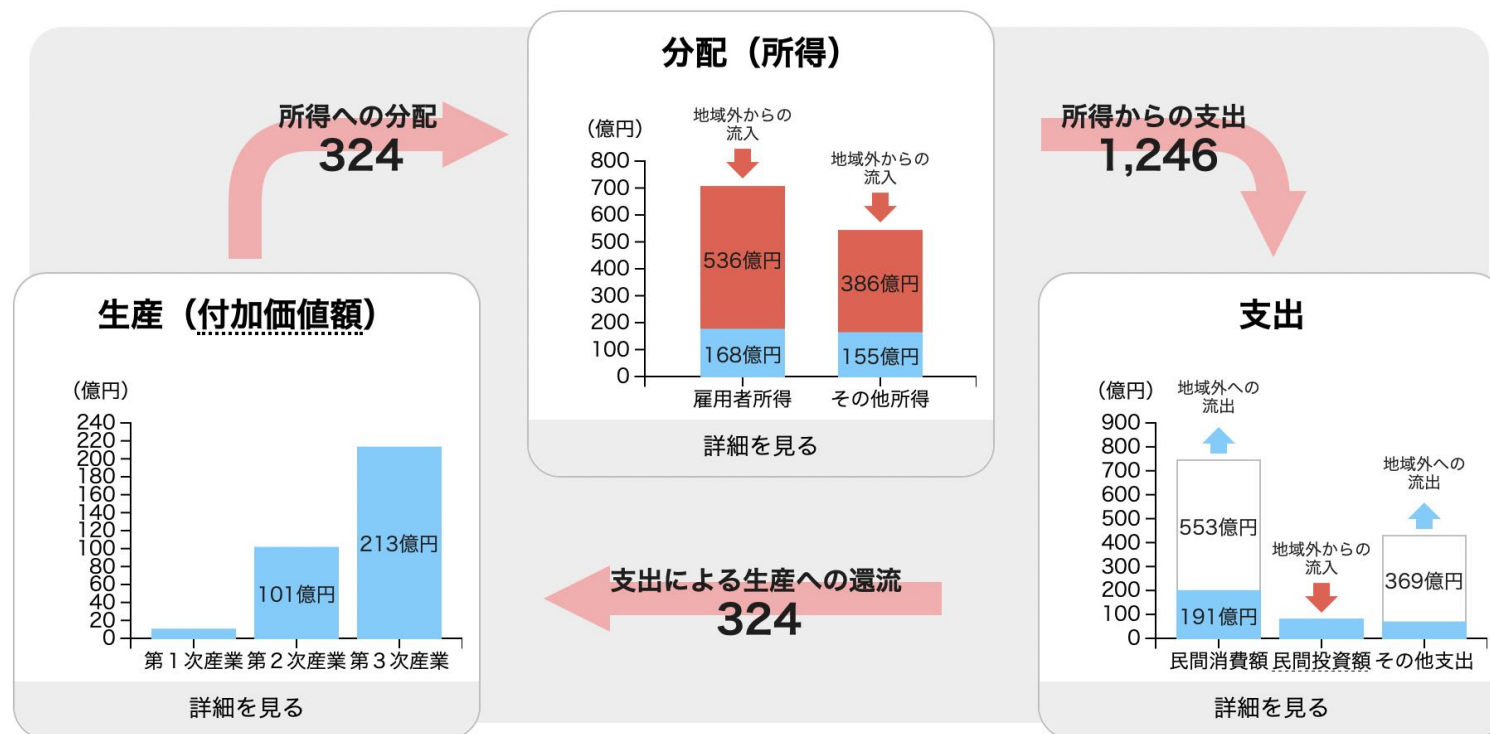
地域経済循環率

26.0%

地域経済循環図

2015年

指定地域：宮城県七ヶ浜町



過去との比較 ー多賀城市ー

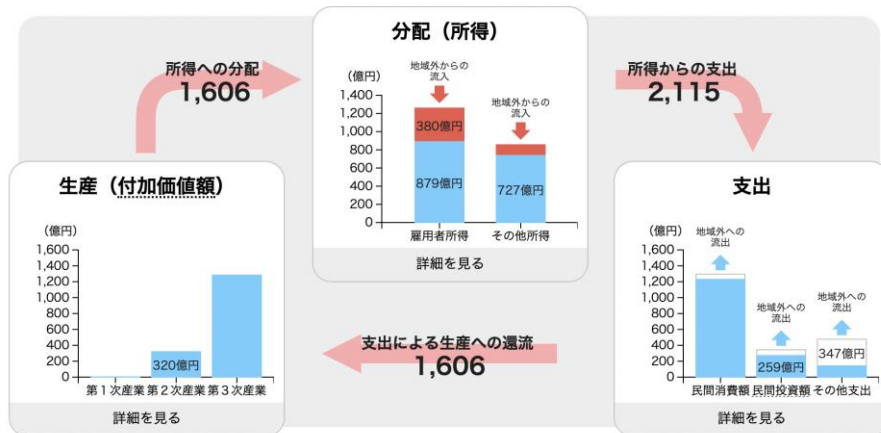


- 多賀城市では地域経済循環率が75.9%から54.6%と大幅に低下。
- 地域内の付加価値額は同等であるが、その他の所得・支出について域外からの流入、流出が顕著。

地域経済循環率
75.9%

地域経済循環図
2010年

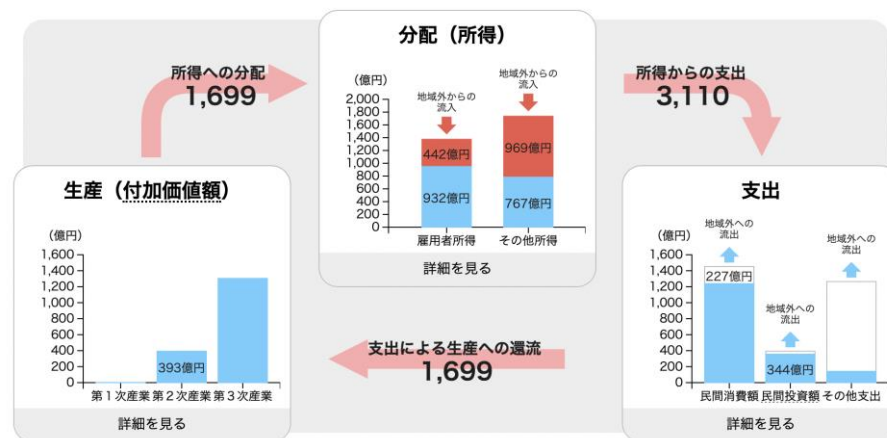
指定地域：宮城県多賀城市



地域経済循環率
54.6%

地域経済循環図
2015年

指定地域：宮城県多賀城市



補足：「その他所得」は財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外を指す。

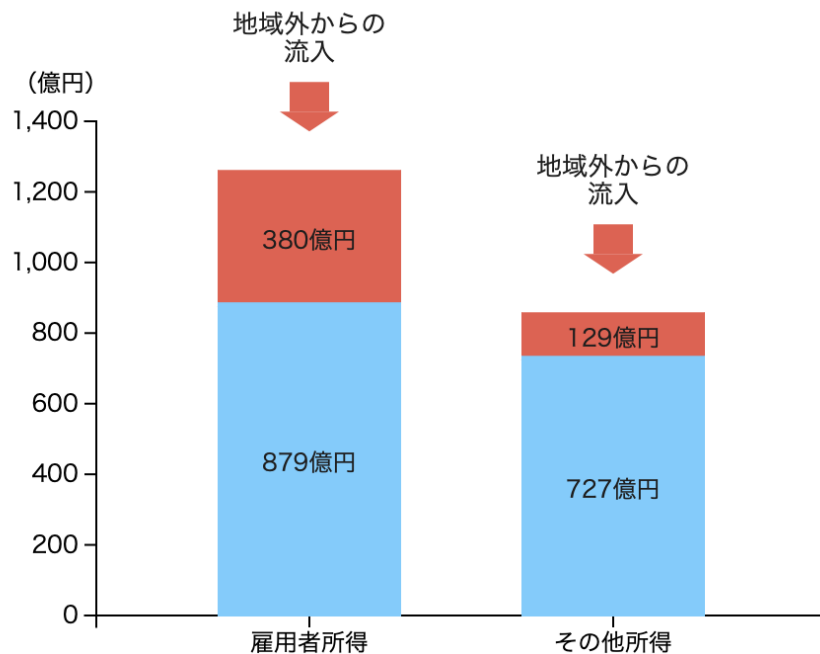
「その他支出」は政府支出、地域内産業の移輸出入収支額等を示す

過去との比較 分配の詳細 ―多賀城市―

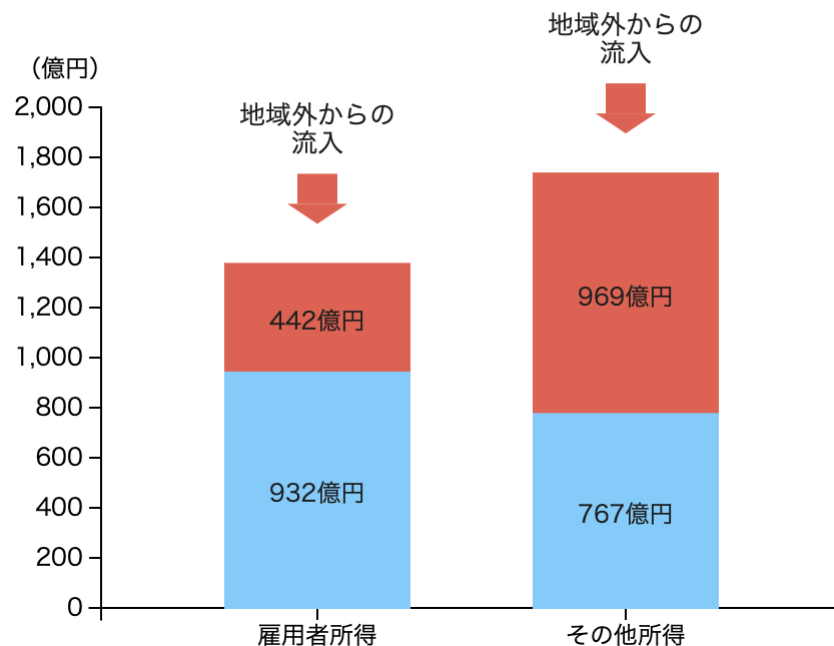


- 雇用者所得は2010年から2015年で地域内勤務者、地域外からの流入とも増加。

**2010年
分配（所得）**



**2015年
分配（所得）**



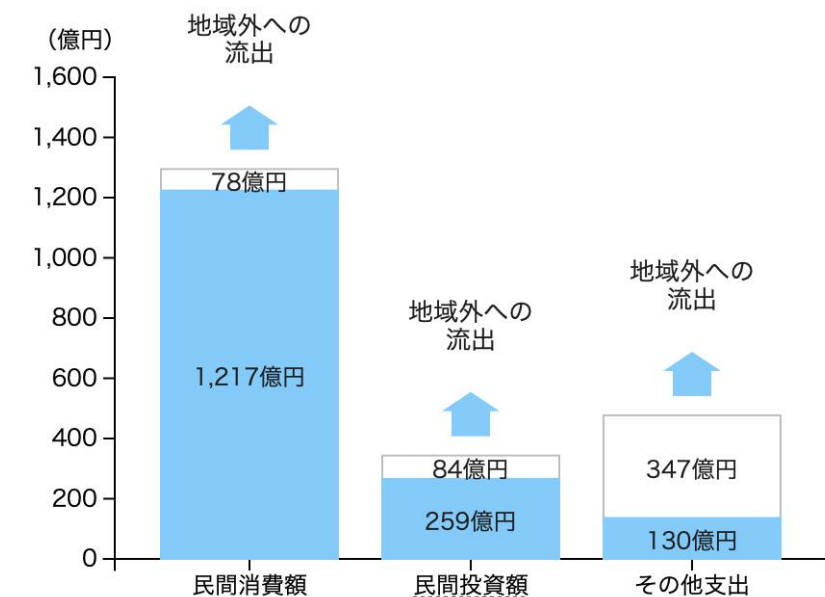
過去との比較 支出の詳細 ―多賀城市―



- 民間消費額は2010年から2015年で地域内ベースの支出は横ばいも、地域外への流出が増加。

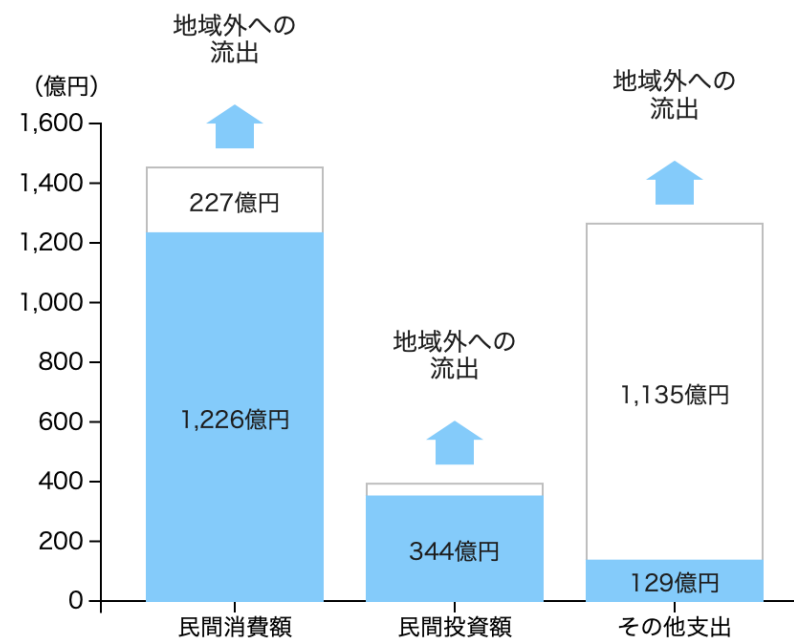
2010年

支出



2015年

支出





地域の経済循環に関するまとめ

多賀城市、七ヶ浜町とも域外で稼ぎ、域外で消費する構造となっている。

2010年から2015年で所得の増加は見られるが、地域内の消費に結びついていない。



産業構造

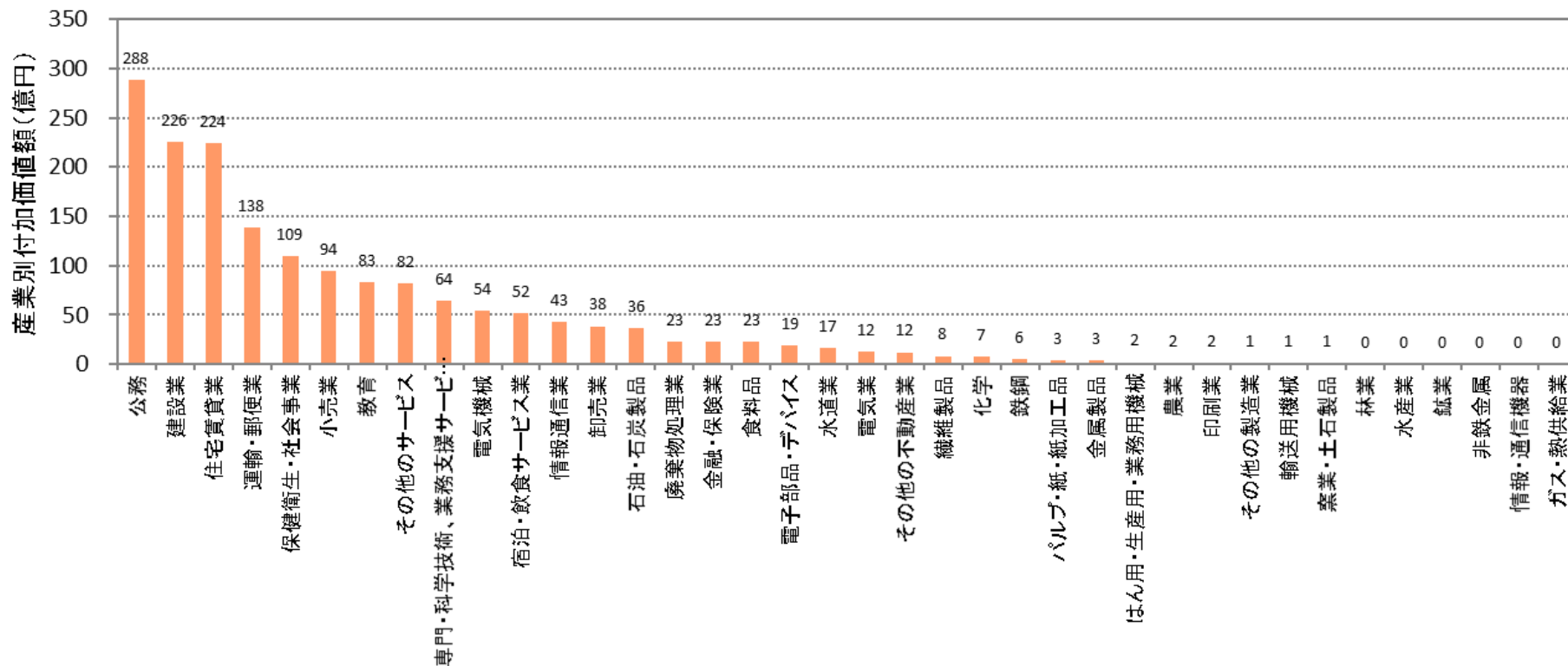
産業別生産分析—多賀城市—



- 多賀城市の付加価値額1,699億円の内訳を分析。
付加価値額が最も大きい産業は公務288億円であり、次いで建設業、住宅賃貸業、運輸・郵便業の付加価値額が大きい。

産業別付加価値額（2015年）

※データが少し古いことに留意



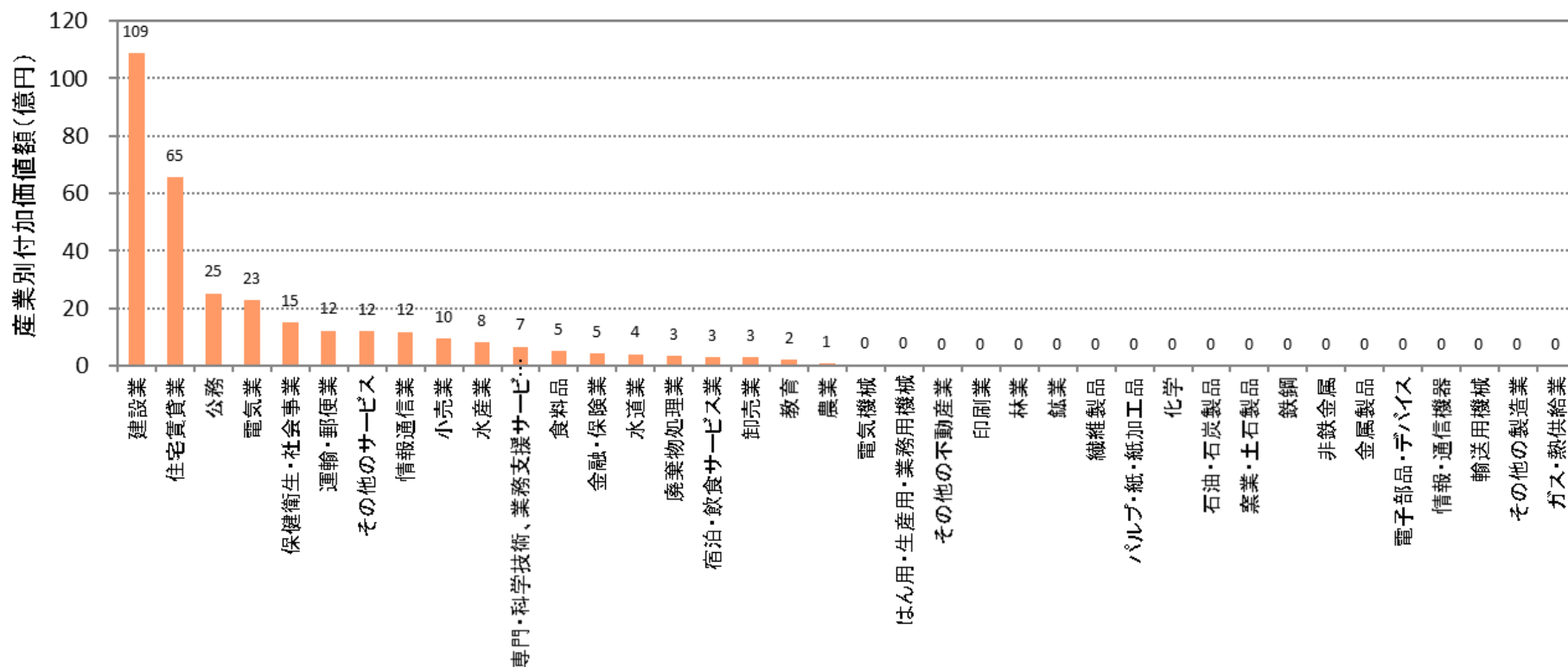
産業別生産分析 ―七ヶ浜町―



- 七ヶ浜町の付加価値額327億円の内訳を分析。
付加価値額が最も大きい産業は建設業で109億円であり、次いで住宅賃貸業、公務、電気業の付加価値額が大きい。

産業別付加価値額（2015年）

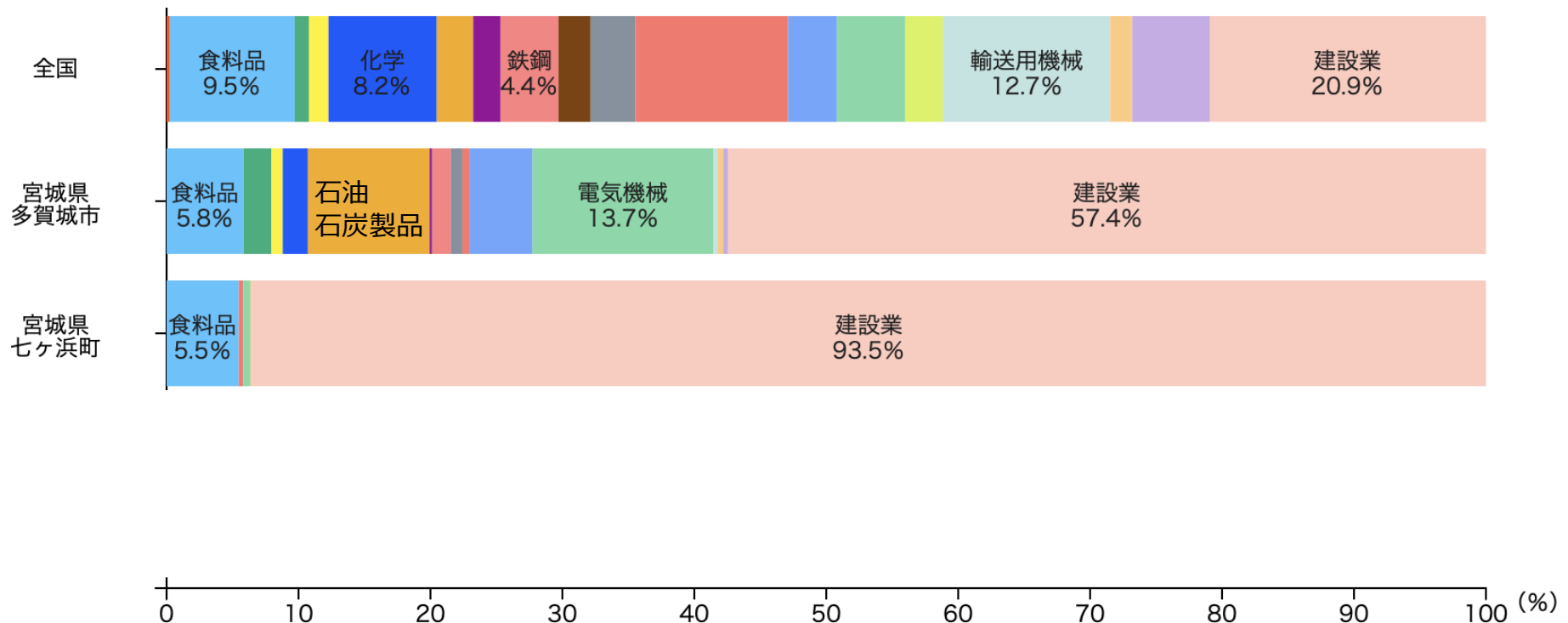
※データが少し古いことに留意



生産分析 2次産業 付加価値額比較



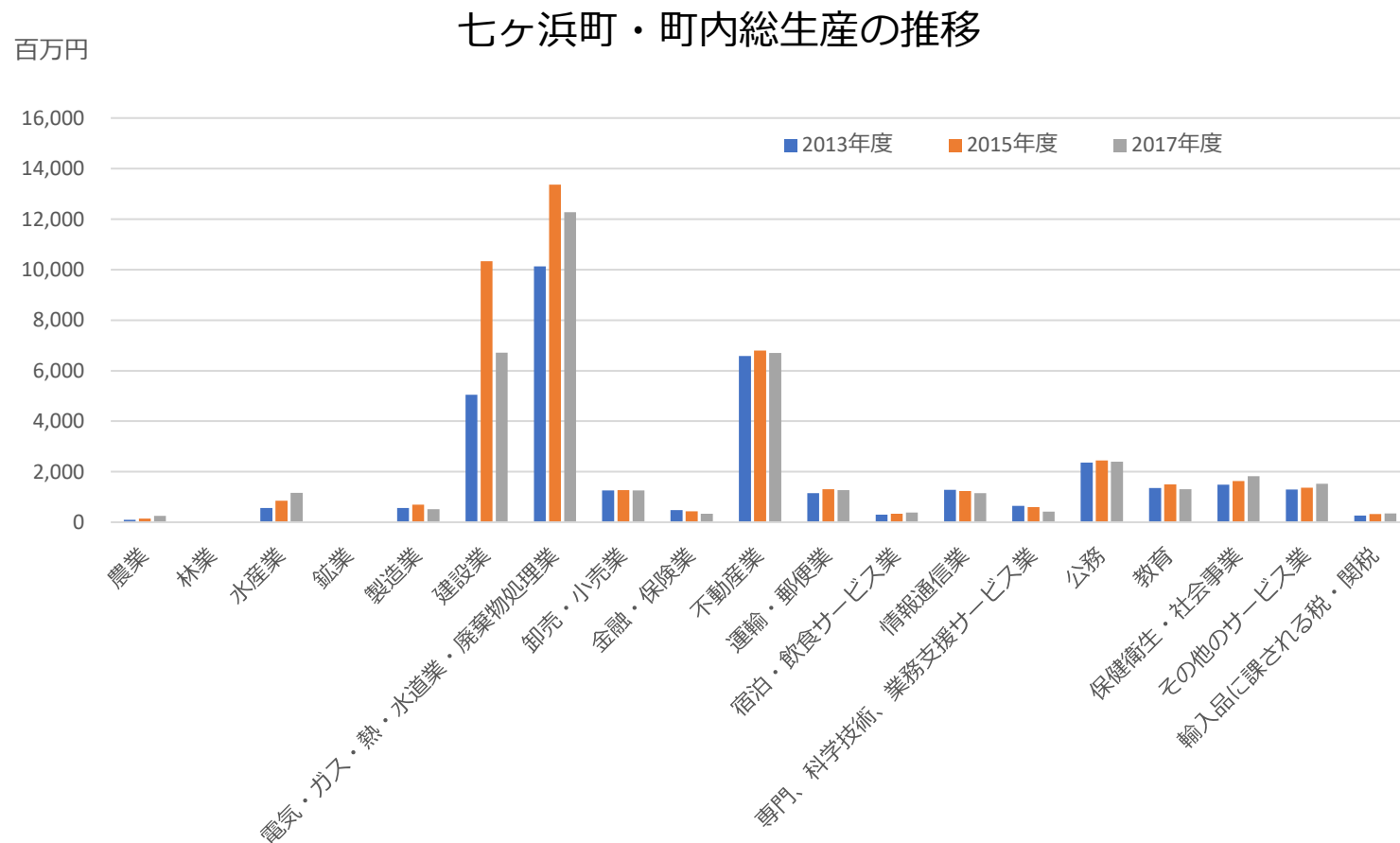
- 多賀城市、七ヶ浜町ともに建設業の割合が多い。
- 多賀城市では石油・石炭製品、電気機械の割合も多い。



七ヶ浜町統計書から作成した総生産の推移



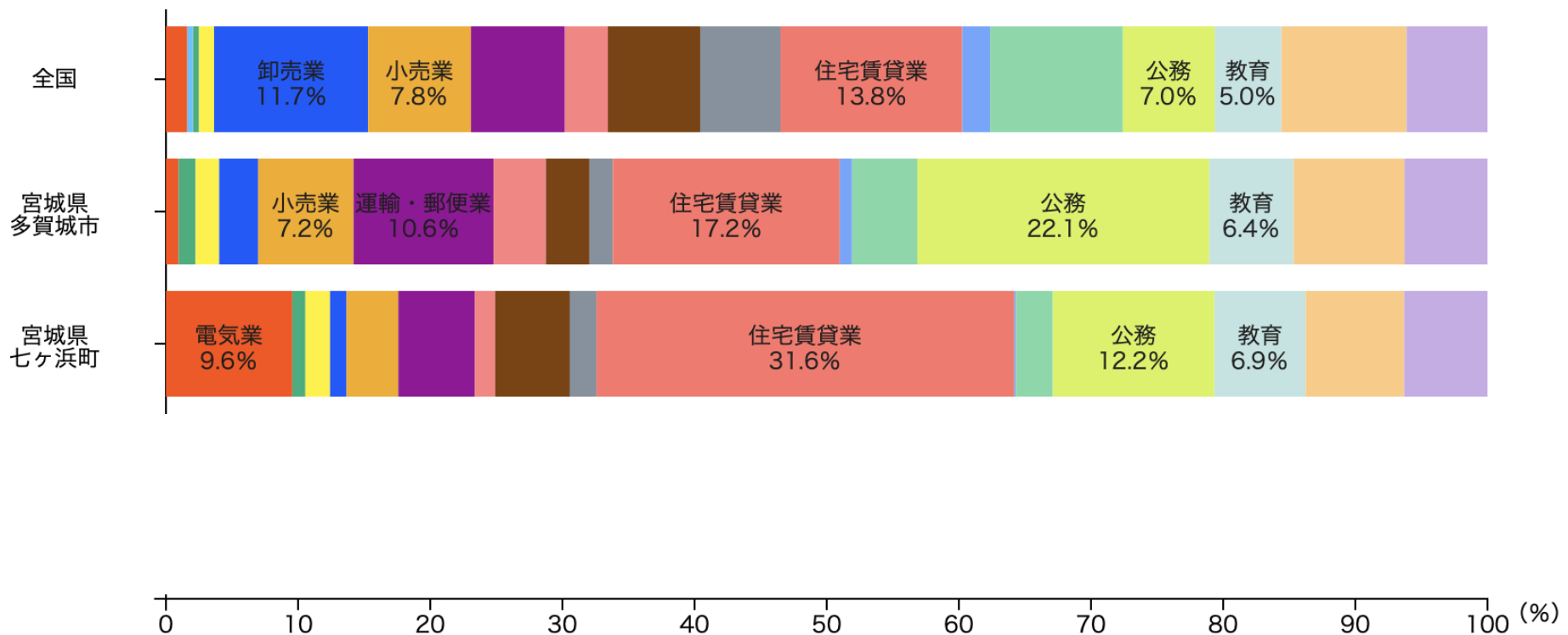
- 電気・ガス・熱・水道業・廃棄物処理業、建設業、不動産業が大きい。
- 建設業は2015年度が他の年度に比べ大きい。



生産分析 3次産業 付加価値額比較



- 多賀城市、七ヶ浜町とも卸売業の割合が少なく、住宅賃貸業や公務が多い。
- 七ヶ浜町では小売業、宿泊、飲食サービス業の割合も少ない。

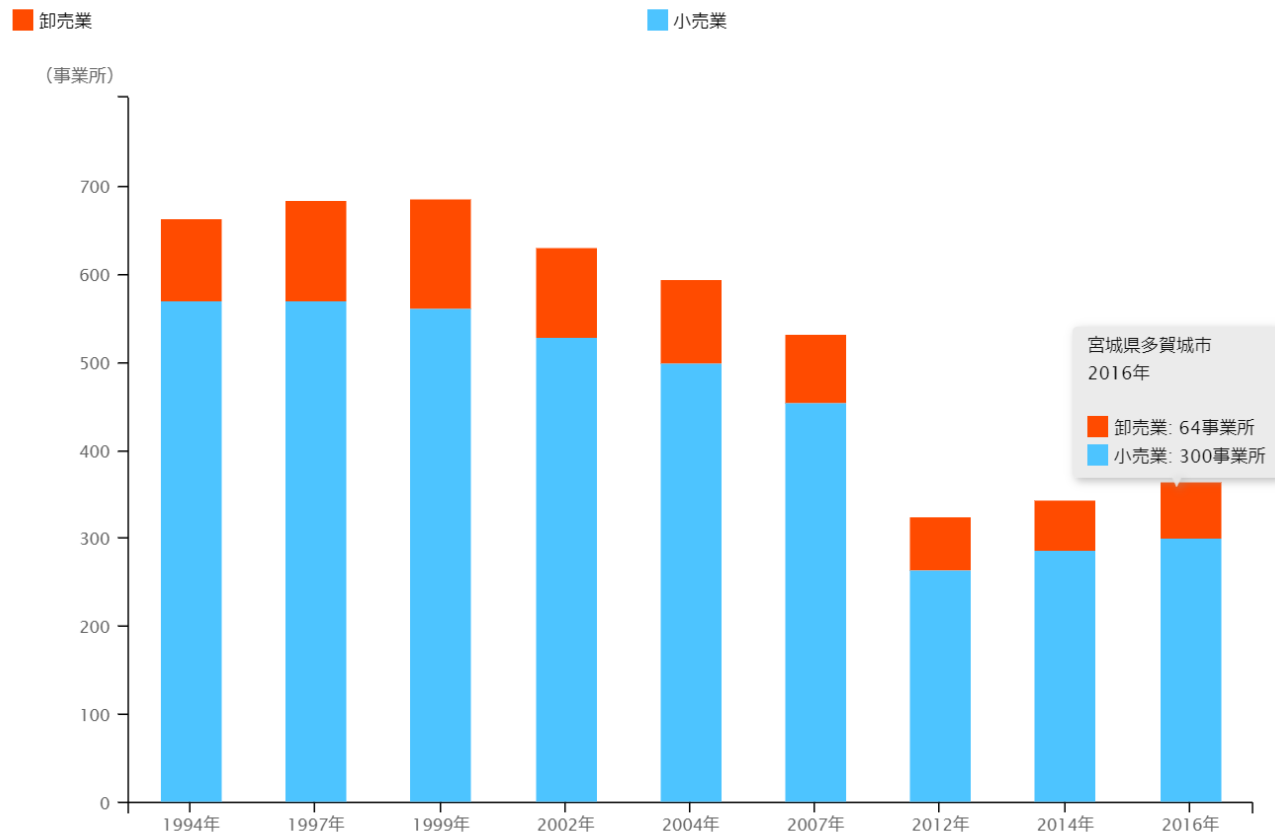


多賀城市の商業－事業所数



- 東日本大震災の影響もあり、2012年の統計において、卸売業・小売業の事業所数が急減している。

多賀城市の卸売業・小売業の事業所数の推移

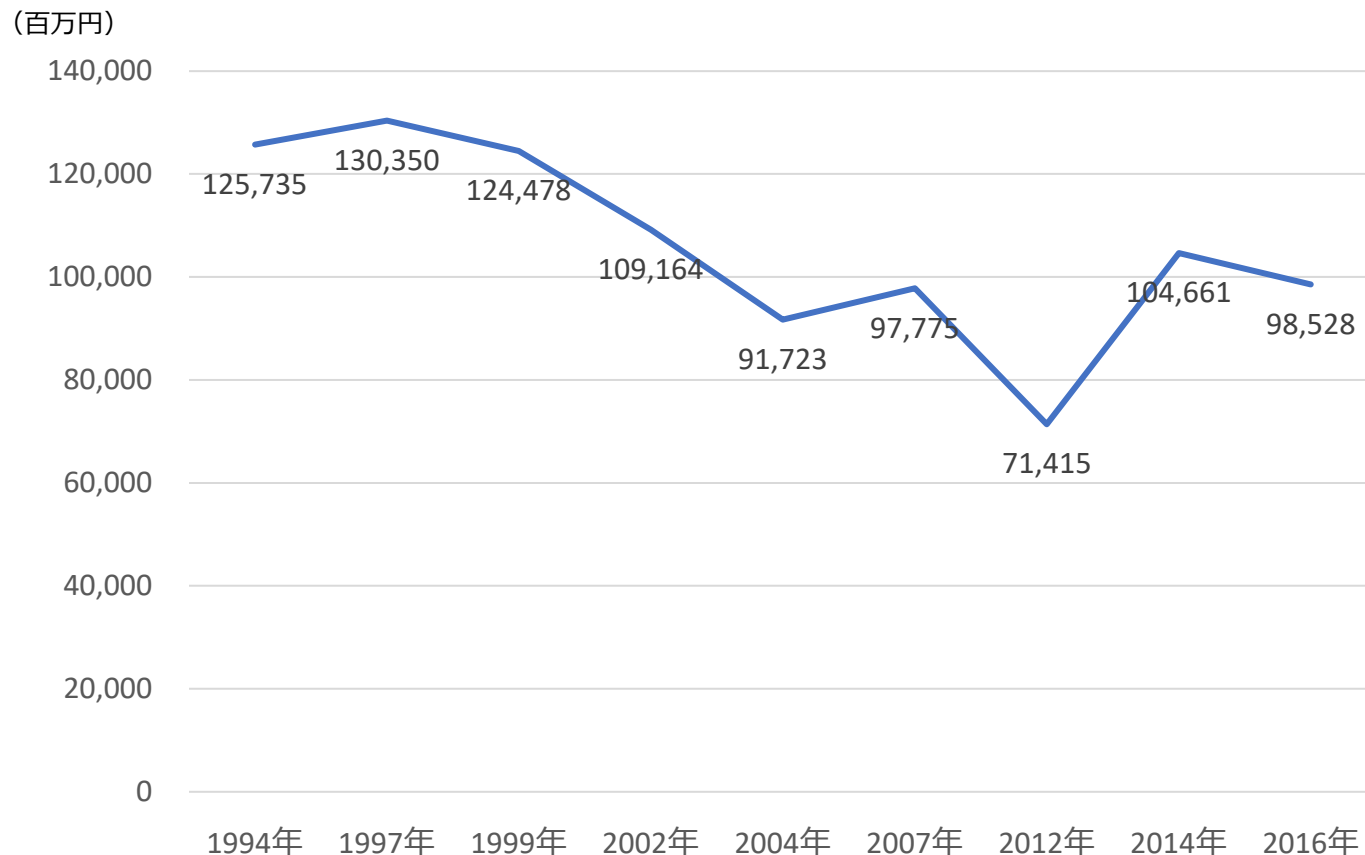


多賀城市の商業（２）－販売額



- 2016年の年間商品販売額（985億円）は1997年（1,303億円）の約4分の3。

多賀城市の卸売業・小売業の年間商品販売額

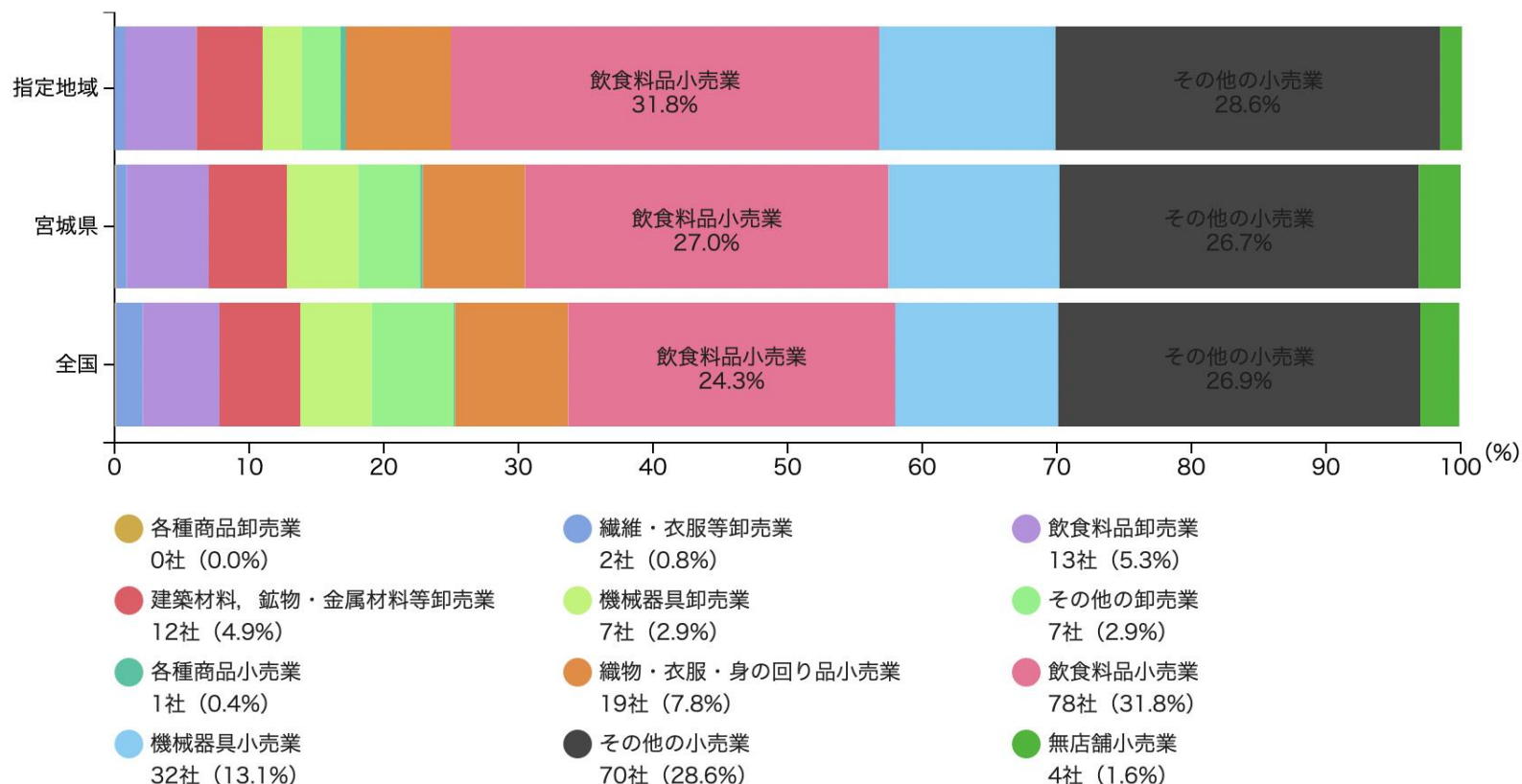


卸売業・小売業の企業数内訳 ー多賀城市ー



- 多賀城市では飲食料品小売業や機械器具小売業の割合が多く、機械器具卸売業、その他の卸売業が少ない。

卸売業，小売業

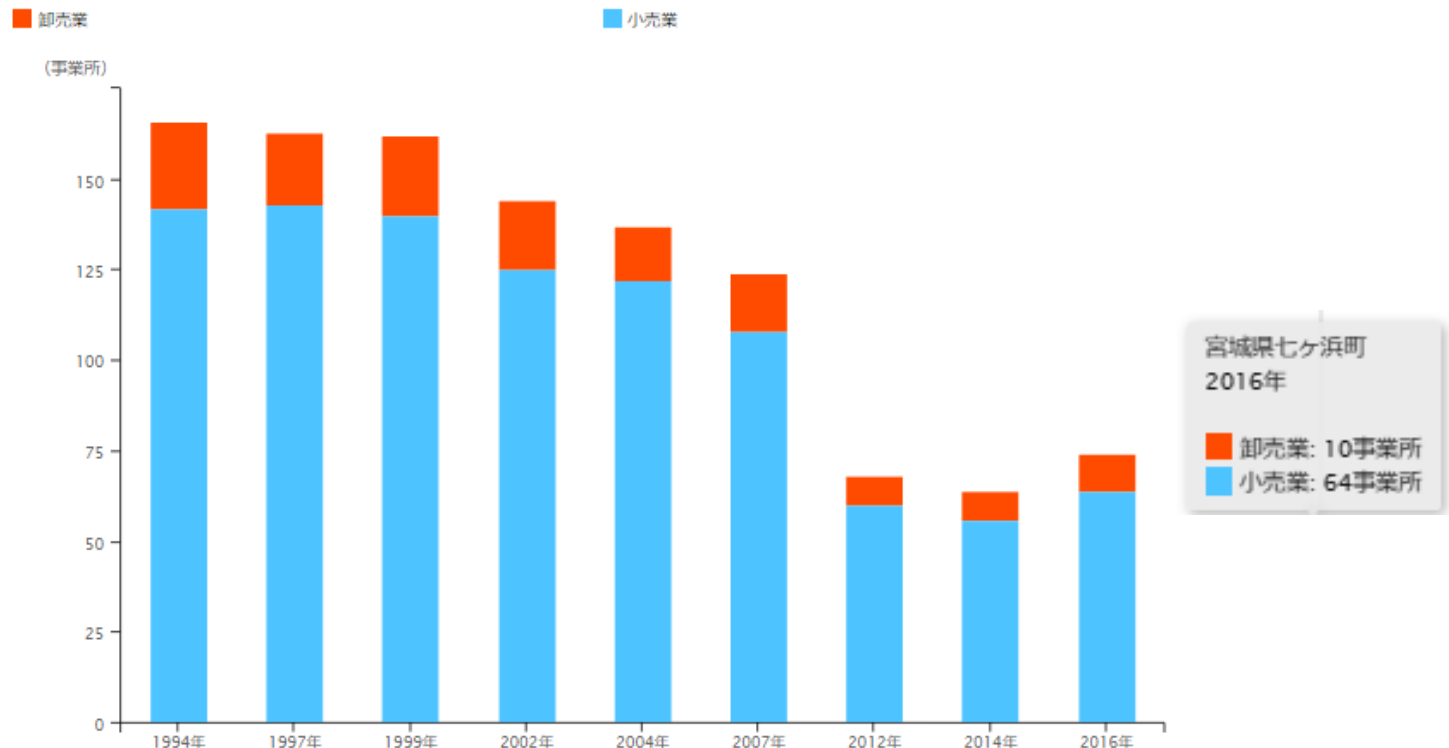


七ヶ浜町の商業－事業所数



- 東日本大震災の影響もあり、2012年の統計において、卸売業・小売業の事業所数が急減している。

七ヶ浜町の卸売業・小売業の事業所数の推移

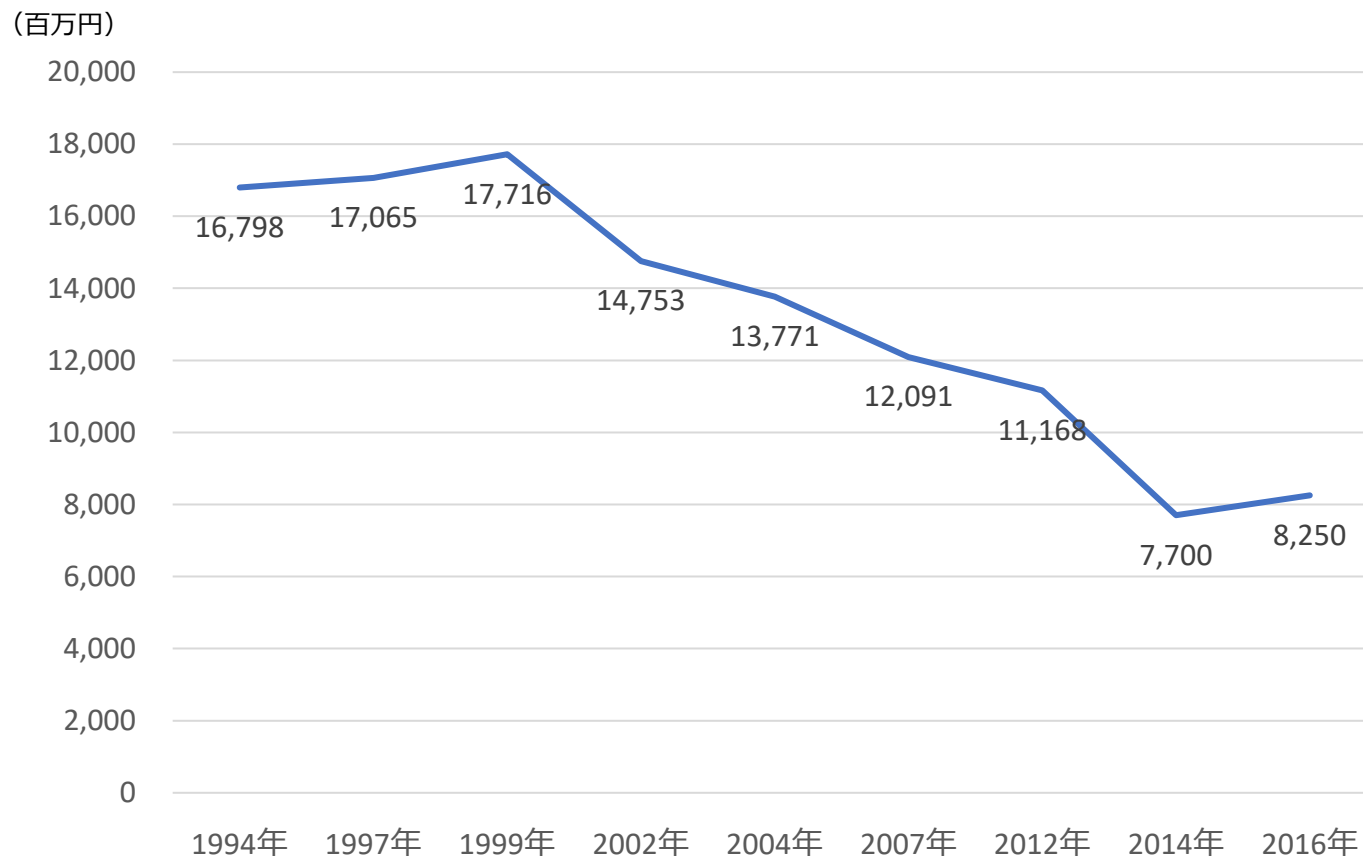


七ヶ浜町の商業（２）－販売額



- 2016年の年間商品販売額（82.5億円）は1999年（177.1億円）の半分未満。

七ヶ浜町の卸売業・小売業の年間商品販売額

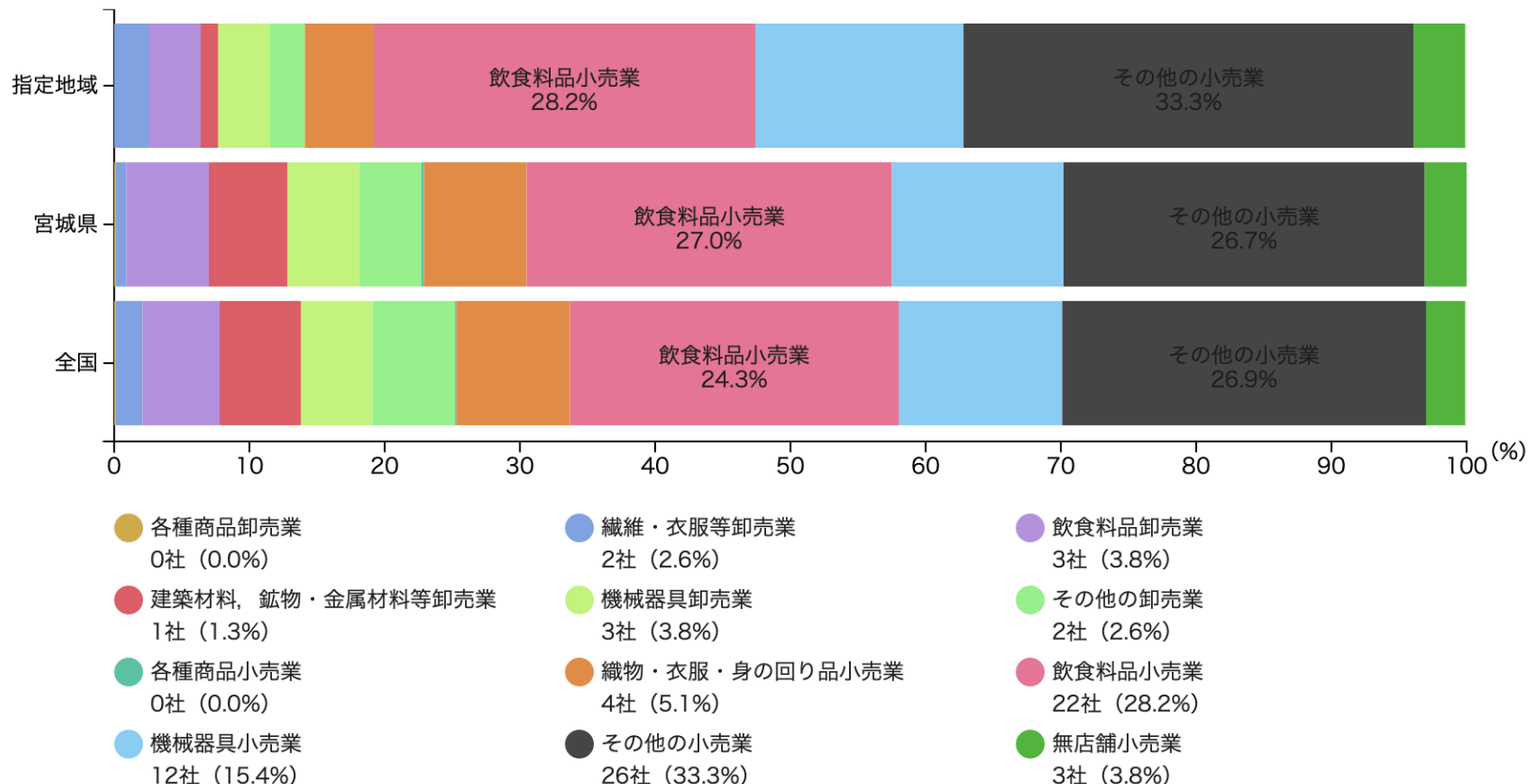


卸売業・小売業の企業数内訳 ―七ヶ浜町―



- 七ヶ浜町では飲食料品小売業や機械器具小売業の割合が多く、建築材料、鉱物・金属材料等卸売業、飲食料品卸売業の割合が少ない。

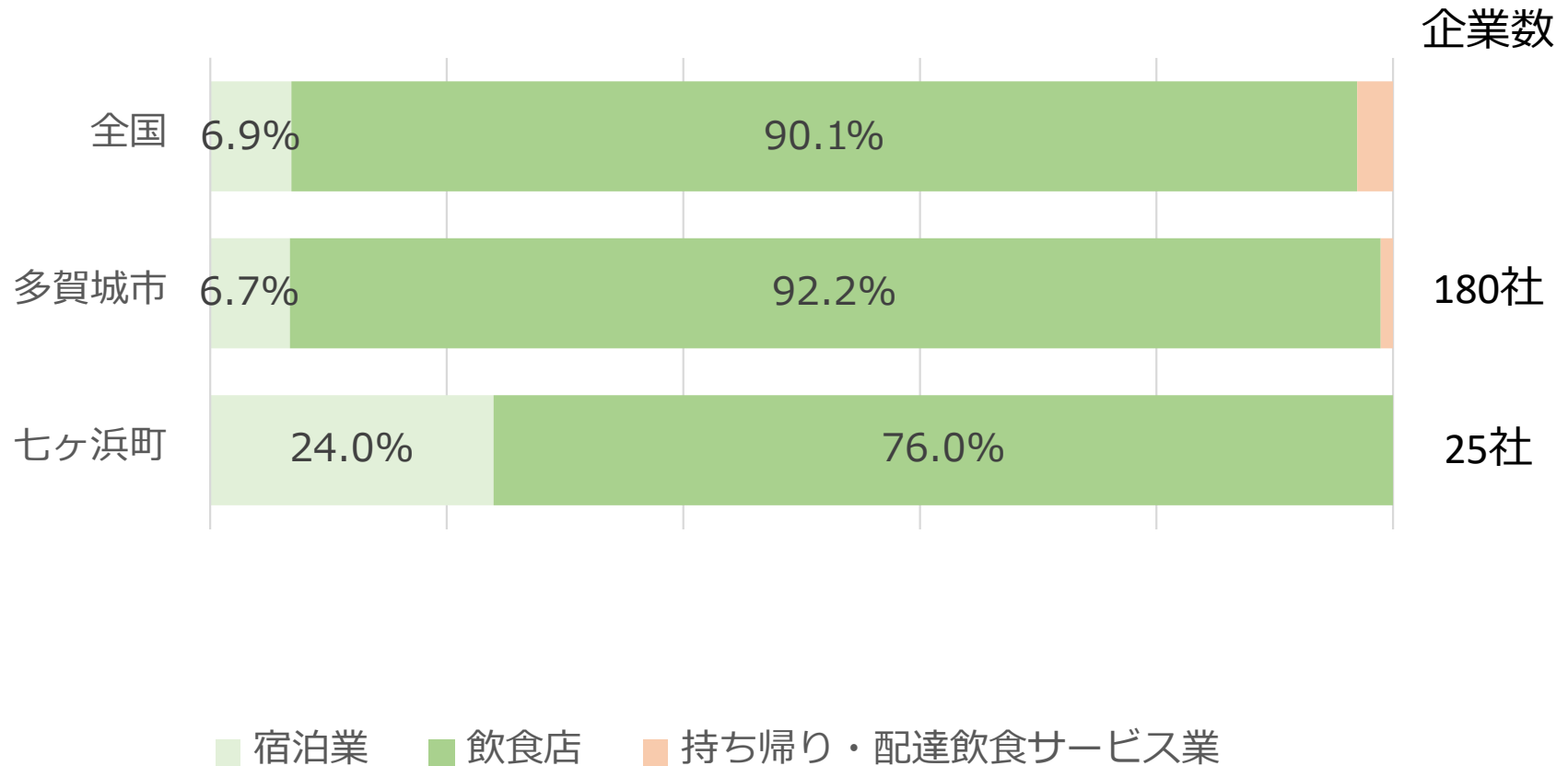
卸売業，小売業



宿泊・飲食サービス業の企業数内訳



- 多賀城市は飲食業の割当が多い。
- 七ヶ浜町では宿泊業が多いものの、企業数が少ない。





産業構造に関するまとめ

建設業、住宅賃貸業、運輸・郵便業が付加価値を生み出している。

宿泊・飲食業サービス業の割合が全国並であることから、観光よりベットタウンとしての役割が大きいと推測する。

震災以降、卸売業・小売業の減少が続いている。
地域内消費の受け皿が必要。



平日、休日の滞在人口

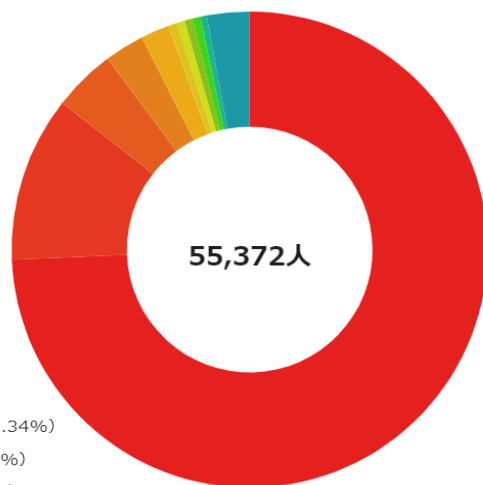
昼夜人口（平日の人の出入り）－多賀城市－



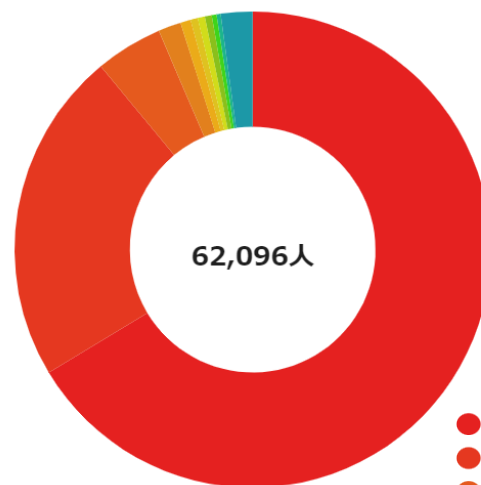
- 住民の約3割強が、平日の日中は町外に滞在している。特に、住民の2割が仙台市に滞在。

多賀城市の昼間人口・夜間人口

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 宮城県多賀城市 41,163人 (74.34%)
- 2位 宮城県仙台市 6,216人 (11.23%)
- 3位 宮城県塩竈市 2,353人 (4.25%)
- 4位 宮城県七ヶ浜町 1,491人 (2.69%)
- 5位 宮城県利府町 1,080人 (1.95%)
- 6位 宮城県富谷市 325人 (0.59%)
- 7位 宮城県松島町 308人 (0.56%)
- 8位 宮城県石巻市 302人 (0.55%)
- 9位 宮城県名取市 292人 (0.53%)
- 10位 宮城県大崎市 239人 (0.43%)
- その他 1,603人 (2.88%)

- 1位 宮城県多賀城市 41,218人 (66.38%)
- 2位 宮城県仙台市 14,039人 (22.61%)
- 3位 宮城県塩竈市 2,838人 (4.57%)
- 4位 宮城県利府町 956人 (1.54%)
- 5位 宮城県七ヶ浜町 439人 (0.71%)
- 6位 宮城県石巻市 306人 (0.49%)
- 7位 宮城県名取市 300人 (0.48%)
- 8位 宮城県松島町 294人 (0.47%)
- 9位 宮城県大和町 205人 (0.33%)
- 10位 宮城県富谷市 166人 (0.27%)
- その他 1,335人 (2.15%)

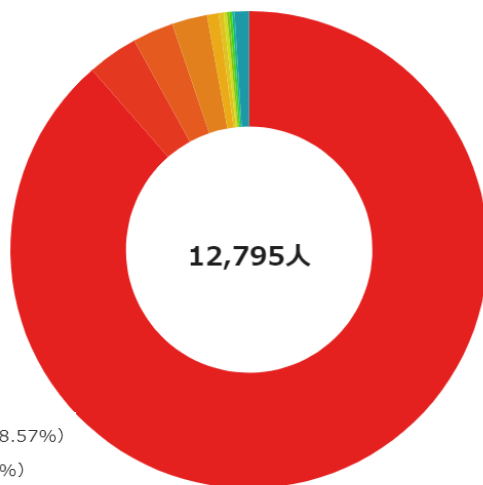
昼夜人口（平日の人の出入り）－七ヶ浜町－



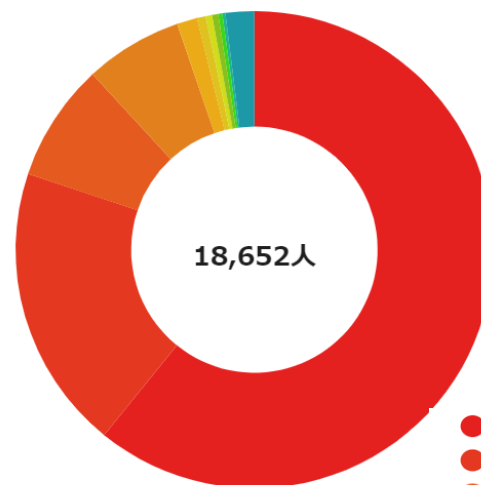
- 住民の約4割が、平日の日中は通勤通学により町外に滞在している。特に、住民の2割が仙台市に滞在。

七ヶ浜町の昼間人口・夜間人口

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



- 1位 宮城県七ヶ浜町 11,333人 (88.57%)
- 2位 宮城県多賀城市 439人 (3.43%)
- 3位 宮城県仙台市 354人 (2.77%)
- 4位 宮城県塩竈市 305人 (2.38%)
- 5位 宮城県利府町 104人 (0.81%)
- 6位 宮城県松島町 40人 (0.31%)
- 7位 宮城県東松島市 30人 (0.23%)
- 8位 宮城県大崎市 22人 (0.17%)
- 9位 宮城県富谷市 22人 (0.17%)
- 10位 宮城県石巻市 21人 (0.16%)
- その他 125人 (1.00%)

- 1位 宮城県七ヶ浜町 11,346人 (60.83%)
- 2位 宮城県仙台市 3,603人 (19.32%)
- 3位 宮城県多賀城市 1,491人 (7.99%)
- 4位 宮城県塩竈市 1,236人 (6.63%)
- 5位 宮城県利府町 254人 (1.36%)
- 6位 宮城県松島町 113人 (0.61%)
- 7位 宮城県名取市 81人 (0.43%)
- 8位 宮城県石巻市 76人 (0.41%)
- 9位 宮城県大和町 52人 (0.28%)
- 10位 宮城県岩沼市 40人 (0.21%)
- その他 360人 (1.93%)

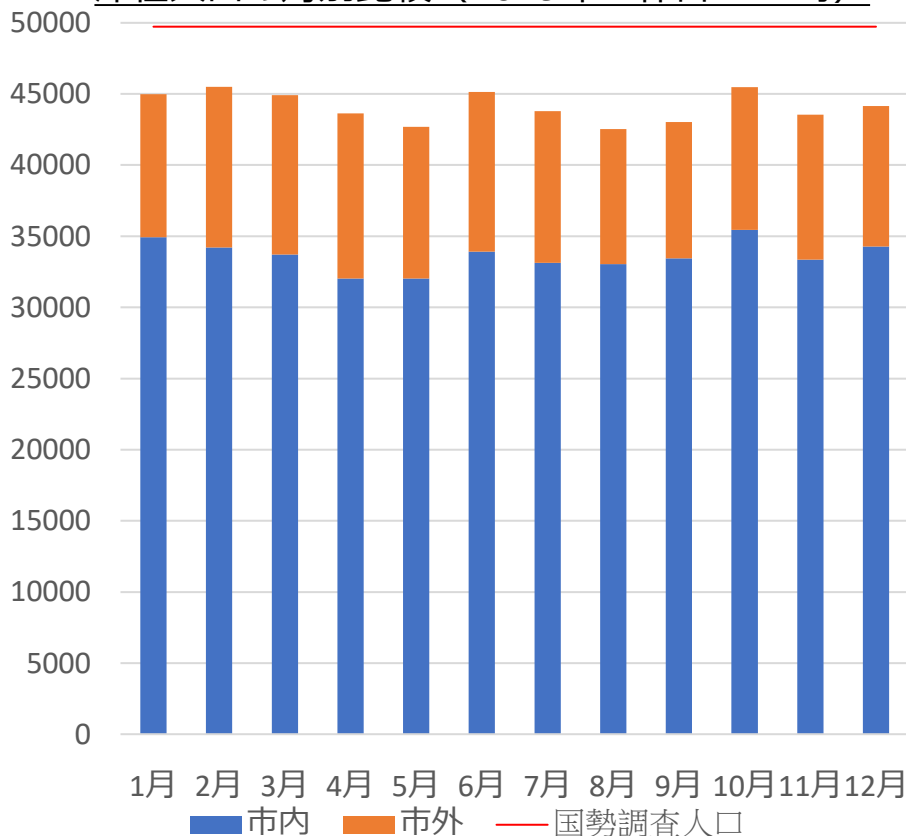
出所：RESAS「まちづくりマップ」>通勤通学人口

休日の人出入り —多賀城市—

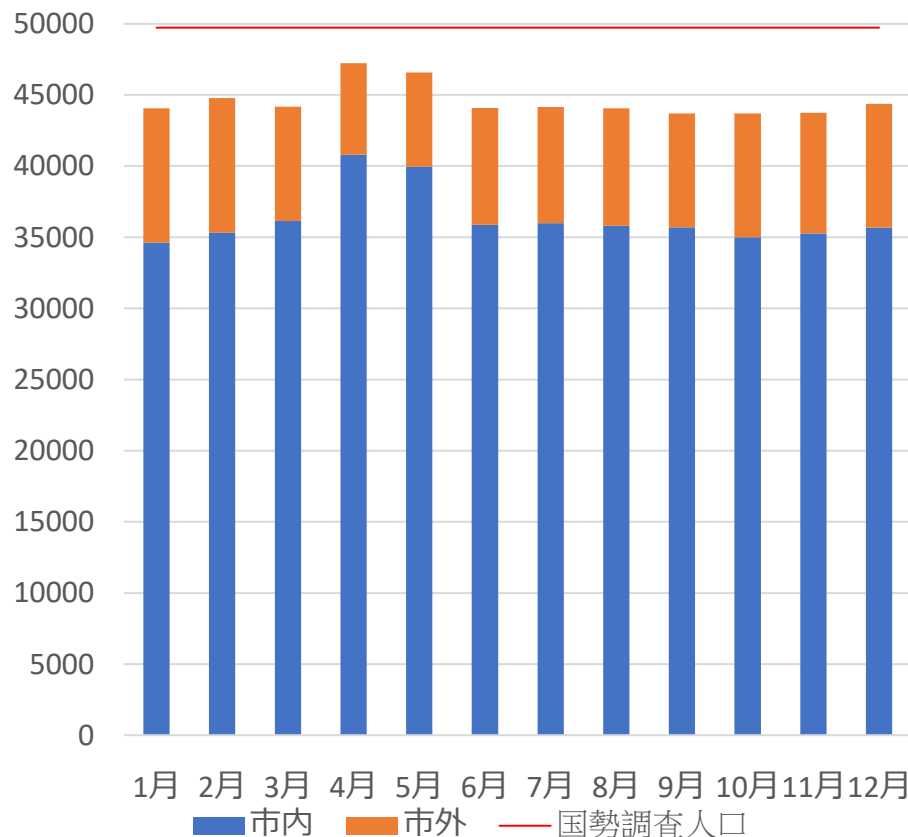


- 年間を通じ、休日昼間は町外への流出超過となっている。
- 2020年は休日の滞在人口、特に市内住民の滞在が増えている。

滞在人口の月別比較（2019年・休日・14時）



滞在人口の月別比較（2020年・休日・14時）



注：15歳以上80歳未満

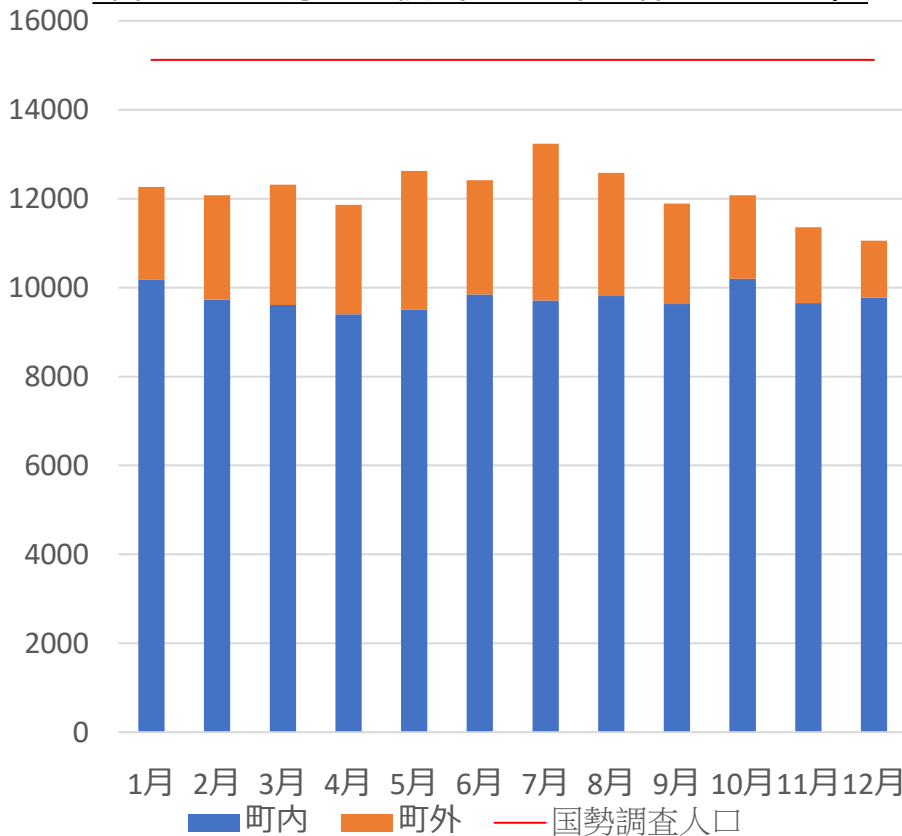
出所：RESAS「まちづくりマップ」>From-to分析（滞在人口）より作成

休日の人出入り ―七ヶ浜町―

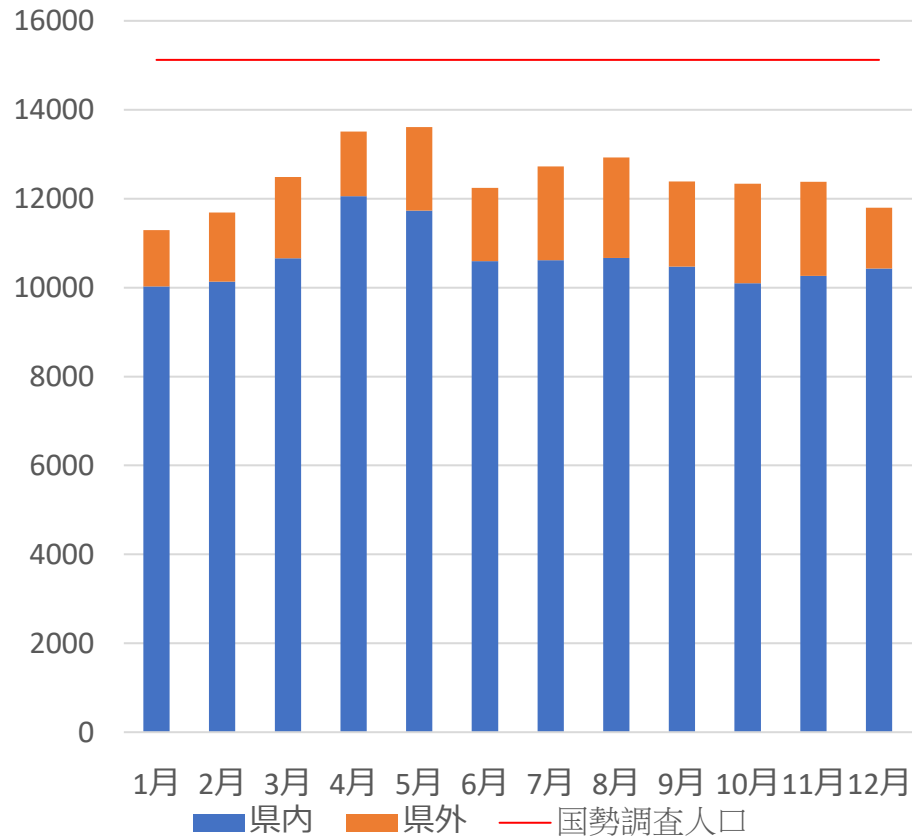


- 滞在人口/国勢調査人口は0.7倍～0.9倍の間で推移しており、年間を通じ、休日昼間も町外への流出超過となっている。

滞在人口の月別比較（2019年・休日・14時）



滞在人口の月別比較（2020年・休日・14時）



注：15歳以上80歳未満

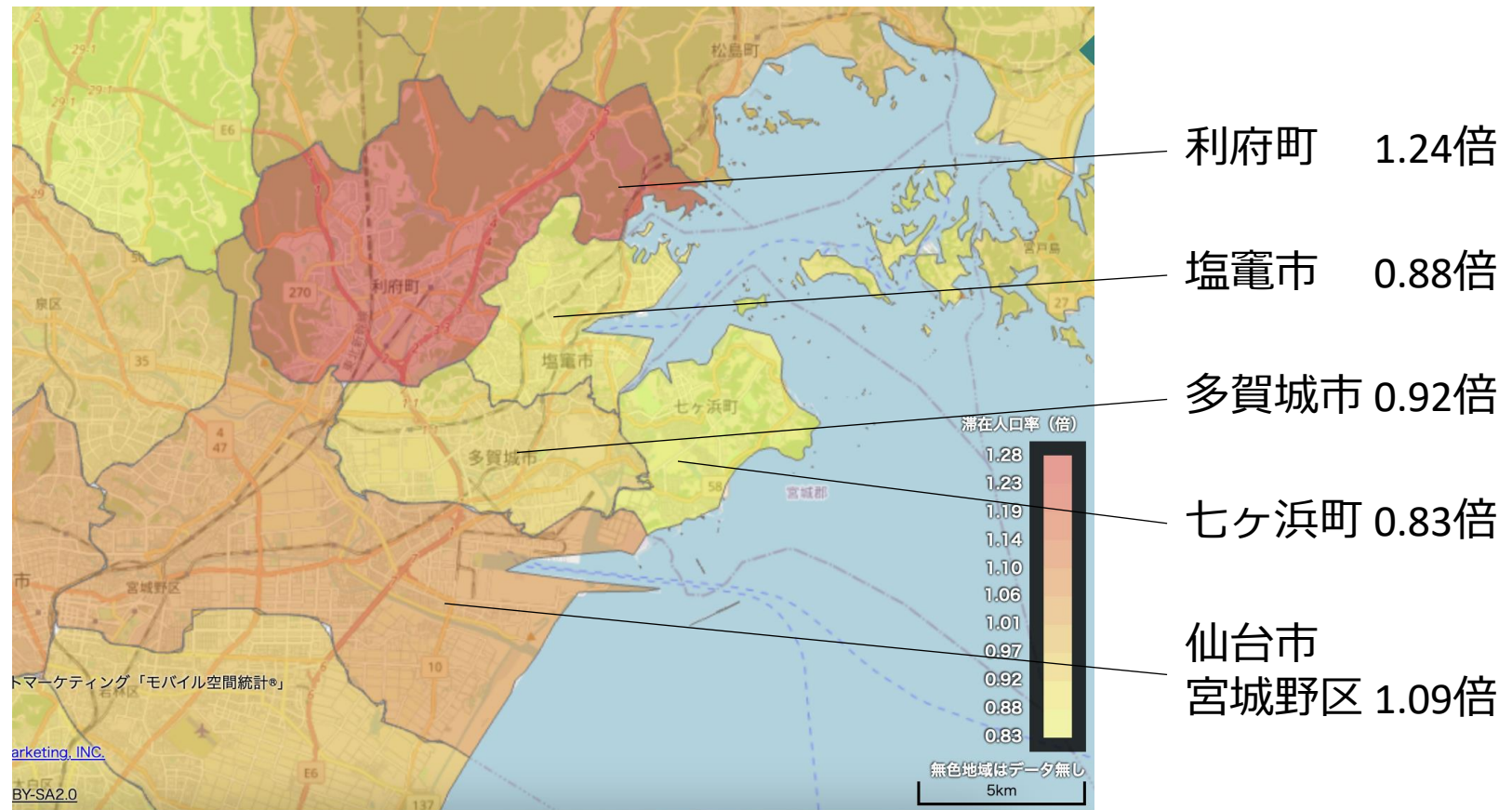
出所：RESAS「まちづくりマップ」>From-to分析（滞在人口）より作成

休日に人が流出している先はどこか



- 周辺地域では仙台市のほか、利府町にも滞在する人が多い。

周辺地域の滞在人口率（2021年6月休日14時）





平日、休日の滞在人口に関するまとめ

平日昼は3～4割が域外へ通勤通学するベッドタウンとなっている。

休日も域外に流出している。行き先は仙台市のほか、利府町が示唆される。



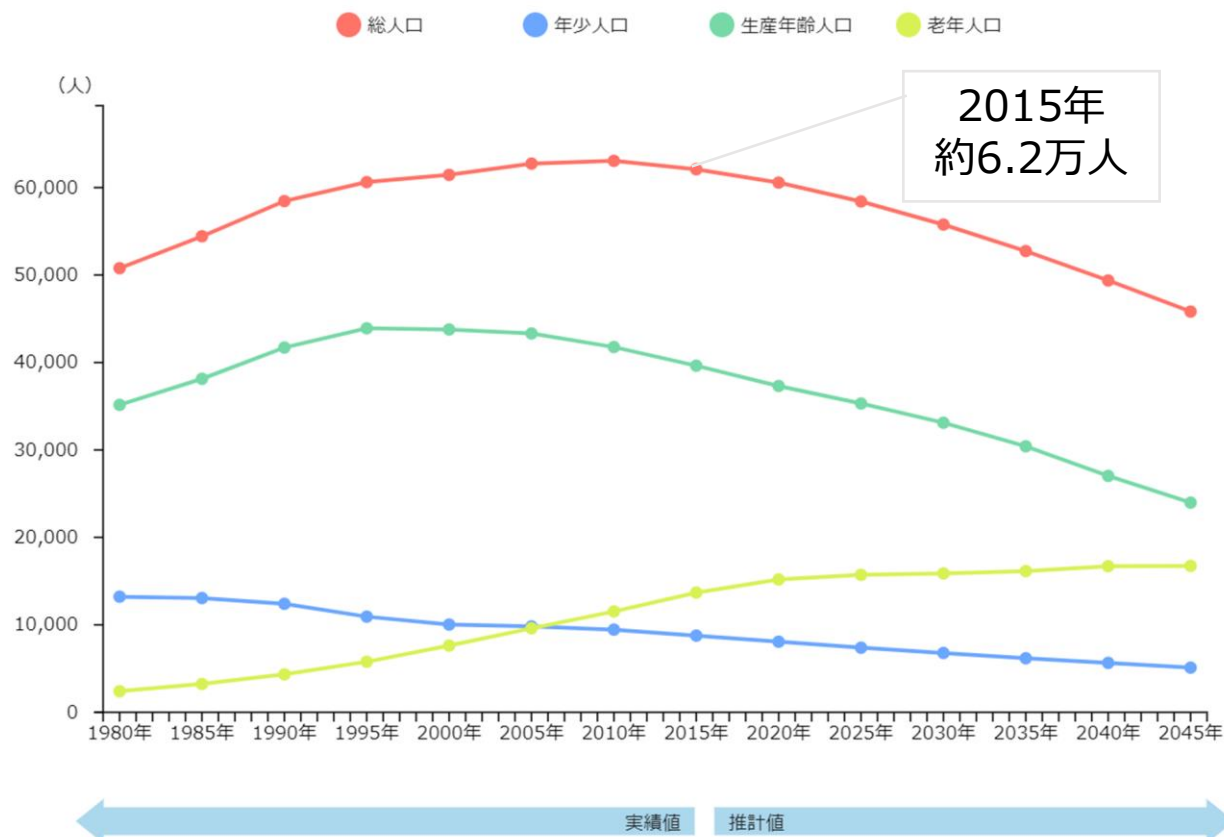
人口構成

多賀城市の人口構成及び今後の推計値



- 多賀城市の高齢化率は全国平均より低い22.0%と、比較的若い世代が多い自治体といえるが、2045年の高齢化率は36.5%まで上昇すると推計されている。

多賀城市の人口推移及び今後の推計値（2015年）



多賀城市の人口構成及び今後の推計値（２）



- 多賀城市の高齢化率は全国平均より低い22.0%と、比較的若い世代が多い自治体といえるが、2045年の高齢化率は36.5%まで上昇すると推計されている。

多賀城市の人口ピラミッド

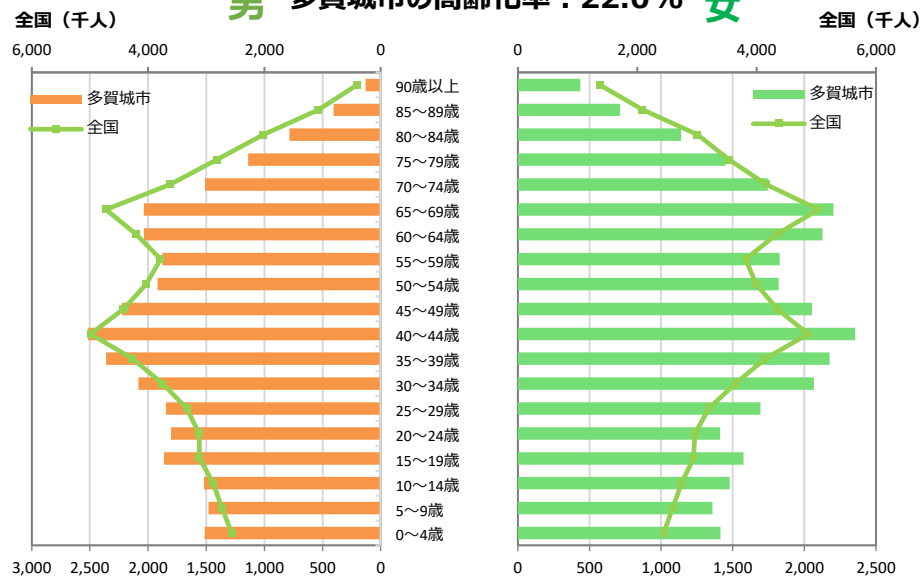
2015年では住民の約4.5人に1人が高齢者（65歳以上）である。高齢化率は全国平均より低い。

高齢化率はさらに上昇し、2045年には住民の約2.7人に1人が高齢者（65歳以上）となる。高齢化率は全国平均より低い。

①人口ピラミッド（2015年）

全国の高齢化率：26.6%

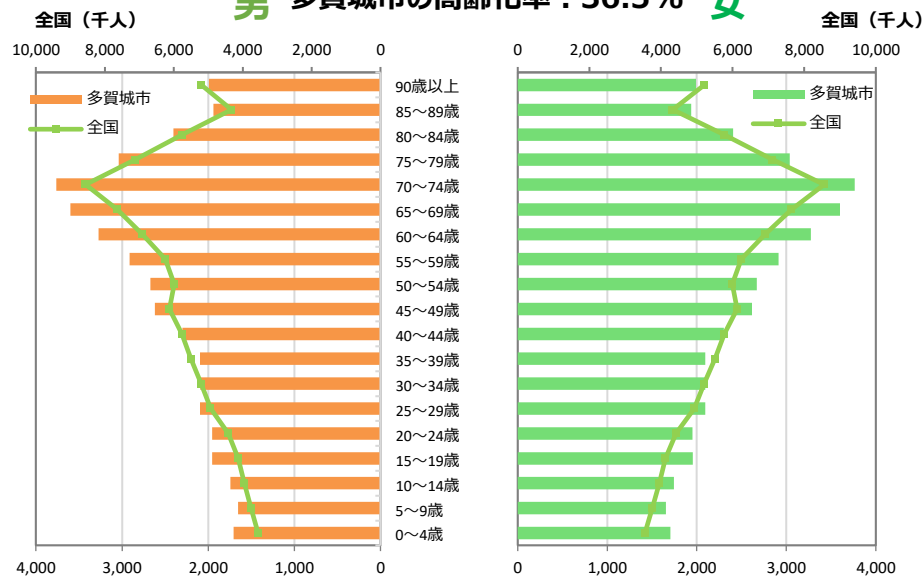
男 多賀城市の高齢化率：22.0% 女



②人口ピラミッド（2045年、推計値）

全国の高齢化率：36.7%

男 多賀城市の高齢化率：36.5% 女



多賀城市 (人)

多賀城市 (人)

多賀城市 (人)

多賀城市 (人)

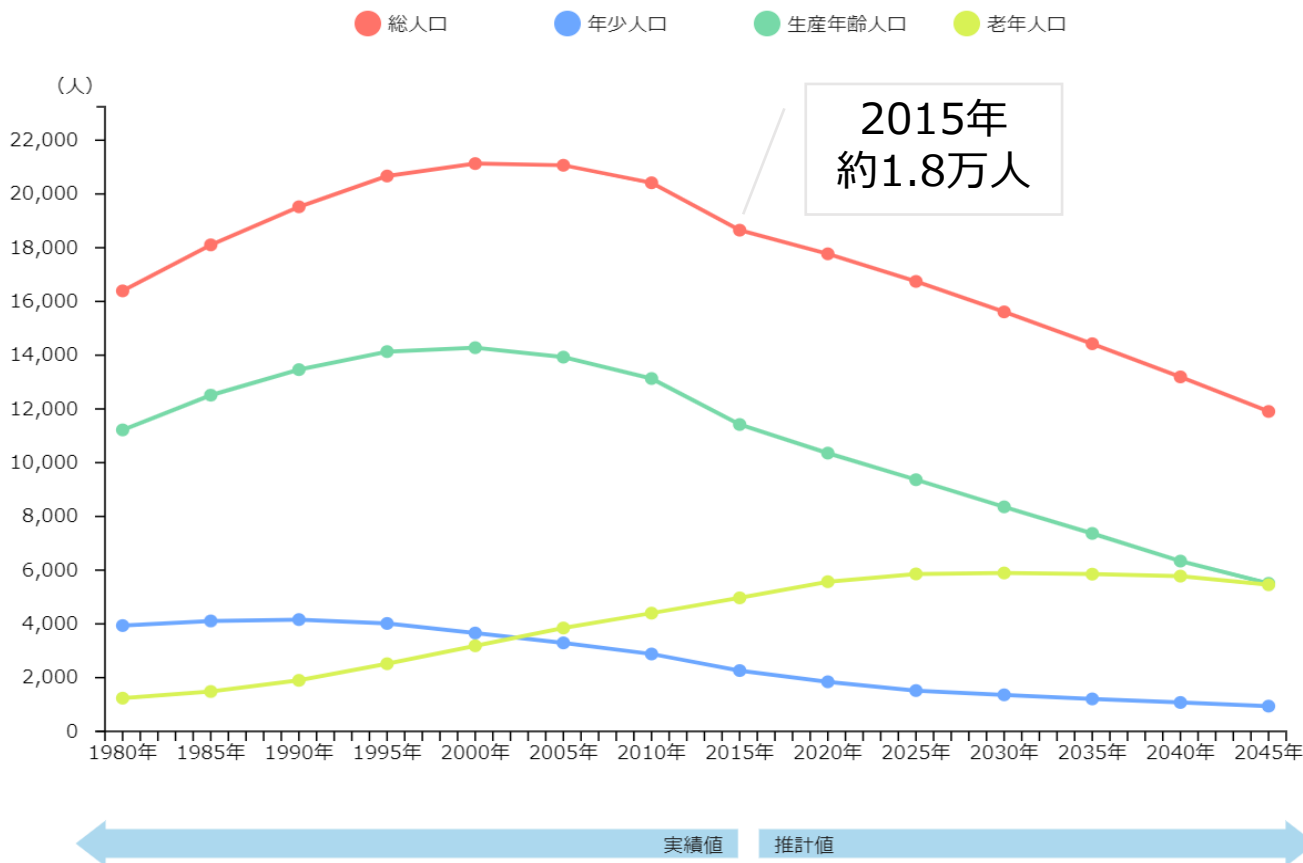
出所：環境省、(株)価値総合研究所「地域経済循環分析」ツールにて作成

七ヶ浜町の人口構成及び今後の推計値



- 七ヶ浜町の現在の人口は約1.8万人であるが、今後、全国平均を上回るペースで人口減少、高齢化が進行すると推計されている。

七ヶ浜町の人口推移及び今後の推計値（2015年）



七ヶ浜町の人口構成及び今後の推計値（2）



- 七ヶ浜町の現在の人口は約1.8万人であるが、今後、全国平均を上回るペースで人口減少、高齢化が進行すると推計されている。

七ヶ浜町の人口ピラミッド（2015年）

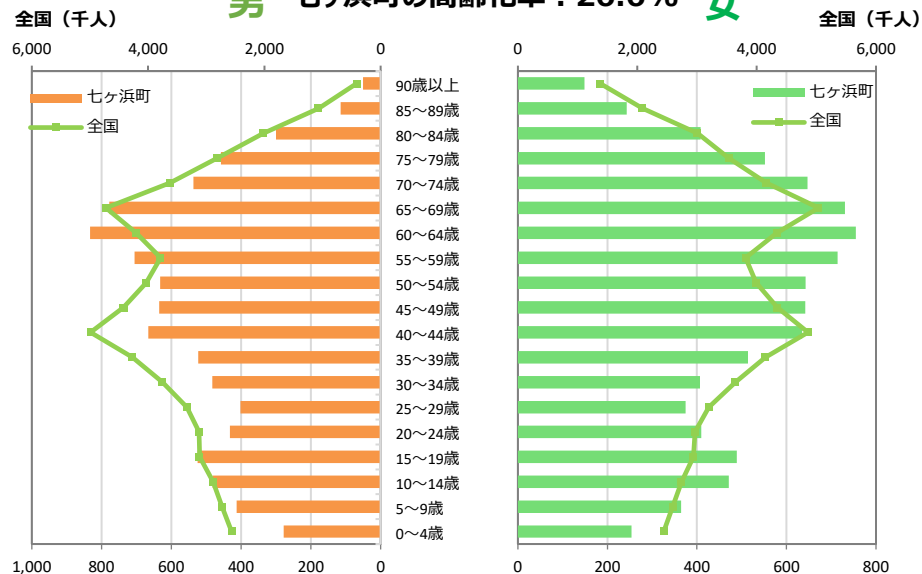
2015年では住民の約3.8人に1人が高齢者（65歳以上）である。高齢化率は全国平均より低い。

高齢化率はさらに上昇し、2045年には住民の約2.2人に1人が高齢者（65歳以上）となる。高齢化率は全国平均より高い。

①人口ピラミッド（2015年）

全国の高齢化率：26.6%
七ヶ浜町の高齢化率：26.6%

女

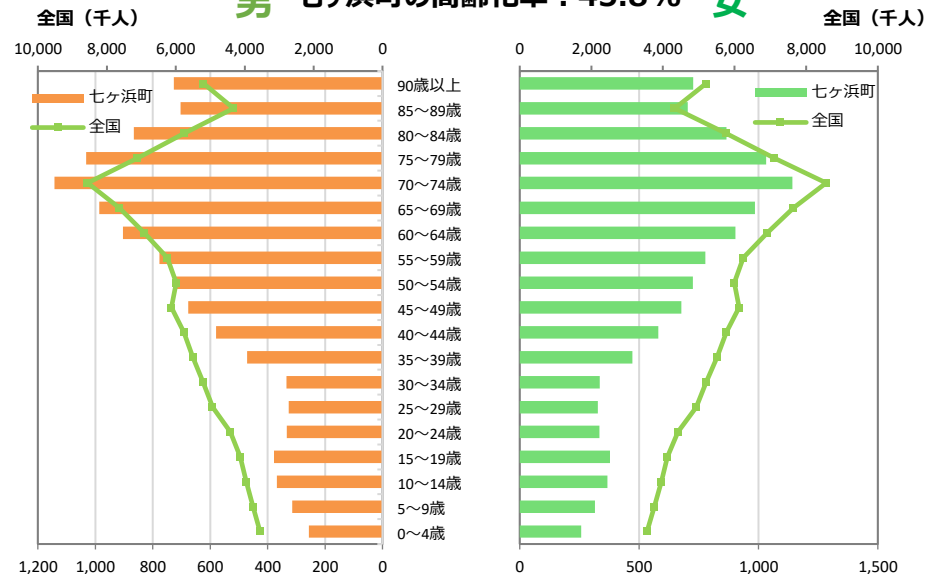


②人口ピラミッド（2045年、推計値）

全国の高齢化率：36.7%
七ヶ浜町の高齢化率：45.8%

男

女



七ヶ浜町（人）

七ヶ浜町（人）

七ヶ浜町（人）

七ヶ浜町（人）



人口構成に関するまとめ

多賀城市は全国に比べ人口構成が若い。
東北学院大学多賀城キャンパスの影響と考えられるが、2023年度より移転が予定されている。

七ヶ浜町は現在の人口構成は全国並であるが、今後、全国平均を上回るペースで人口減少、高齢化が進行すると推計されている



RESASを利用した分析のまとめ

SWOT分析



	(目的に対して) ポジティブ	(目的に対して) ネガティブ
	<u>強み (Strengths)</u>	<u>弱み (Weaknesses)</u>
内部環境	・ 大都市の仙台市と観光地の松島・石巻に近い立地 ・ 三方を海に囲まれ、年間60万人が訪れる観光資源 ・ 車の利便性がよく、東北各地へのアクセスが容易 ・ 比較的若い人口構成	・ 事業者数の減少 ・ 域内消費の取りこぼし ・ 域外から所得獲得する産業の不足 ・ 業種が建設業・住宅賃貸業や公務の割合が大きく、その他産業への転換が進んでいない。
外部環境	<u>機会 (Opportunities)</u>	<u>脅威 (Threats)</u>
	・ 全国的な副業・兼業の高まり ・ コロナ禍に対応したリモートワークの普及 ・ マイクロツーリズムやグランピングの流行 ・ 近隣地域にある東北最大のイオンモールの存在。	・ 東北学院大学 多賀城キャンパス（工学部）の移転 ・ 高齢化の加速



あるべき姿

観光資源を活かした事業創出により
域内の雇用・消費が活性化し、
若い世代が定住する街

課題

- ・ 観光客の需要獲得
- ・ 地域製品の域外への販売
- ・ 地域住民の消費拡大
- ・ 若い世代の定住推進

提案



- 観光客の需要獲得
泊まらなくても1日楽しめる。
近隣区域の住民をターゲットとした
アウトドアレジャー。



- 地域産品への域外への販売
農商工連携マッチングフェア。
高校生商品開発コンテスト。



- 地域住民の消費拡大
シェアキッチンを利用した週末起業。
働き手、起業家を逆指名。
空き店舗への誘致。



- 若い世代の定住促進
サテライトオフィスの誘致、
リモートワーク需要の獲得。
都市圏へのアクセスをアピール。

